大正期　（その 11）
～「相中相高八十年」より～

11　軍事的教育

大正期においては、軍事的教育が強化されて行ったように見える。明治以来、兵式体操・学校教練担当教授が配され、それは昭和の太平洋戦争終了時まで継続して置かれる。大正末期には現役将校が配置され、さらに軍事的教育の強化が期待されることになるのである。

本校の行事や出来事を見ると、恒例のものとしては
　〇海軍記念式…講話・武道大会
　〇発火練習…実弾射撃も
があった。

各年度から拾ってみると（抜粋）、

大正二年度	〇陸軍大尉小川倍平体操教授嘱託される。
大正三年度	〇寄宿舎撃剣試合
	〇福島連隊区司令官神戸大佐の軍事講話
大正四年度	〇蔵原海軍少佐の海軍に関する講話
大正五年度	〇第二九連隊長山田大佐講話
	〇第四連隊来町、機動演習見学。
大正六年度	〇教育総監部歩兵少佐清野孝蔵来校
	〇海軍少佐小森吉助講話
大正七年度	〇仙台山砲隊輕重隊出征通過のため、職員生徒随時駅に歓送迎（六日間）
	〇陸軍飛行機見学の目的で生徒職員原町に行くが、天候不良で飛来せず。
大正八年度	〇講道館柔道五段高橋氏来校、実技指導
大正九年度	〇福島連隊区司令官竹田大佐来校講話
	〇　相馬郡連合在郷軍人会主催相馬郡戦死者招魂祭に職員生徒一同産列。式後、三年生以上二十九連隊一個中隊と合同模擬戦闘を行う。
大正十四年度	〇駆逐艦見学
	〇相良大尉新任式

大正末期の軍事的教育は、昭和のいわば「戦争の時代」への傾斜を反映している。学校教育に関しては、大正十四年に陸軍現役将校学校配属令、教練教授要目が出された。本校における相良大尉の就任は、この配属令に基づくものである。

（12 月 24 日　転記・抜粋＆文責　村山）